

イー歯トープ 8020



歯と口のハテナ

県歯科医師会

14

歯周病とは、細菌感染や過剰な力により歯を支える歯周組織が破壊されてしまう病気です。歯周組織は「歯肉」「歯槽骨」「歯根膜」「セメント質」の四つで成り立ち、これらが共同して歯を支え、噛む力を発揮する重要な役目を担っていますので、私たちの食生活を支えている大切な組織なのです。我が国における歯周病の罹患率は非常に高く、40歳以上の約8割の方がかかっている病気です。他人事ではありません(2011年歯科疾患実態調査報告より)。

歯周病の初期は自覚症状が少なく、歯肉が赤く腫れたり歯磨きの時や食事の時に出血したりしますが、知らないうちに徐々に

歯周病とは

和賀 浩幸

歯周病は歯肉溝にプラークがたまることから始まります

炎症はさらに根の先に向かって拡大、歯槽骨が半分以上破壊され、歯はグラグラです



歯肉の腫れが大きくなり、根の先に向かって炎症が拡大し、歯槽骨や歯根膜も破壊されはじめます。それに伴いポケットも根の先に向かって深くなり、歯周ポケットになります。プラークや歯石が歯周ポケットにたまっていきます

(日本歯科医師会ホームページ「歯周病」より)

歯垢付着が主な原因

に進行していきます。進行するにいたがって、冷たいものがしみてきたり、お口の中がねばねばしたり、歯肉が痩せて歯の根が伸びたようになったり、食べ物が挟まりやすくなったり、歯並びが悪くなってきたりします。さらに重症化すると歯肉かの歯肉溝は歯周病の進行とともに

に歯周ポケットへと変化し、だんだん深くなっていきます。日常の歯磨きが行き届いていないと、歯石が付着したまま放置されていることにより発症、進行する生活習慣病の一つといえます。また、糖尿病や心臓疾患、呼吸器疾患、妊娠などの全身の病気や状態が歯周病の悪化と深く関わることもわかってきました。

かかりつけ歯科医院での定期的なチェックや歯石除去を含む歯のクリーニング、早期の治療が大切になります。

(月曜日に掲載します)



和賀 浩幸 (わが・ひろゆき) 1961年生まれ。岩手医科大学歯学部卒。県歯科医師会学術医療管理委員会委員。和賀歯科(北上市)院長。北上市在住、同市出身。